

取材対応者(予定)

副センター長(理工
学部) 平原英俊教授文献部門長(教育学部)
藪 敏裕教授

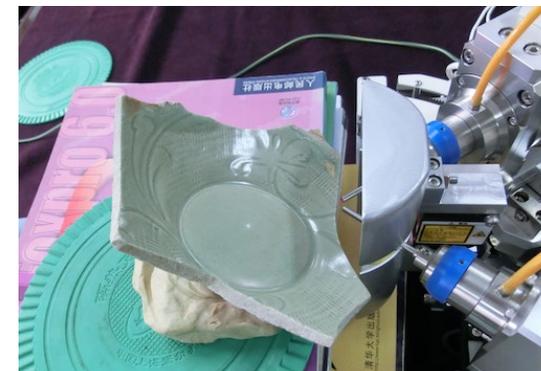
特色ある取組

中世都市平泉の文化の形成は、東アジアの文物の交流を抜きにして語ることはできない。その平泉の遺跡群からは、数多くの中国産陶磁器が発掘され、質・量ともに同時代の博多と京都に匹敵することが明らかになっている。当センターは、平泉出土の陶磁器について、東アジアの観点からその産地を推定し、その後の流通と消費に関する特質を明らかにするために、文系と理系の枠組みを超えた学際的研究手法を導入しつつ、国内外の研究者も交えて研究を推進している。

1)中国側に関しては平泉に流通する中国産陶磁器の産地の可能性が高い福建省・浙江省の研究者と協力しつつ、中国研究機関の研究者による遺物実見に加え、当センターが所持するポータブル蛍光X線分析装置を用いて現地で陶磁器片を計測している。2)平泉出土の中国産陶磁器についても同様に計測を行い、さらに博多や京都の遺跡群出土の同じタイプの遺物についても計測している。3)陶磁器を手がかりに平泉と東アジア各地域の中世都市との比較を行うとともに、最終的に産地と流通ルート进行を明らかにする。

上記取組による成果・評価 など

1)中国各地での資料計測成果と平泉出土資料との比較研究の論文6本をもとに、成果は①「12~14世紀の貿易陶磁器の生産」②「12~14世紀の日本国内貿易陶磁器の流通とルート」③「中国国内における南方産陶磁器の流通」④「産地推定に関する研究」からなる当センター監修の『貿易陶磁器と東アジアの物流—平泉・博多・中国』としてまとめられ、その意義は岩手日報(令和元年5月26日)の記事でも高く評価されている。



陶磁器資料の計測

中国研究者による資料実見

参考URL

・平泉文化研究センターHP
<http://chs.iwate-u.ac.jp/>



平泉出土中国陶磁器四耳壺